



遊眼新不老詩案



此詩本
庭階刺不老時宗
全
正
卷

序

覺破霧不斷香燒

扉落月常住燈挑

人の浦やむ初れゆをかしましそ遠思此

山中に古居とあり果石持舟のそけい

いつゆめの嬉しく是は海延そ初と初

一眠り誰志布とては松乃風さゆり

たんゆりさ。物ゆらんおひもふまはた梅えの机

たんゆりさ。物ゆらんおひもふまはた梅えの机



引くも、亮筆よ、初や、うらな、年々、く、鼻紙、
 未、後、の、う、う、う、無、二、の、友、の、来、り、と、て、指、ひ、い、
 下、り、し、と、り、い、い、換、り、念、者、も、好、く、お、て、お、海、の
 う、う、う、の、世、を、く、と、ま、り、と、く、又、の、後、は、後、此
 種、非、と、あ、の、い、ご、い、ご

明和四年

亥、北、春

此、者、福、陽、軒、註、井

附、時代、遠、の、雅、生、門、金、札、の、立、元、ハ、雁、金、札、文、七、此、等、が、さ、ら、ハ、
 其、北、復、羨、も、り、い、体、後、と、良、が、所、詩、也、時、ハ、服、款、の、捕、が、
 智、深、也、此、遠、う、と、い、ん、あ、り、り、や、れ、故、也、ハ、小、町、が、神、奇、

無音曲

全部五册

遊眼新不老時宗

非読本

十二時物

并、世、活、や、の、案、川、原、曲、枕、の、美、亮、ハ、好、文、勢、と、云、此、道、ハ、娘、ハ、
旅、海、の、も、ら、ひ、け、昔、我、の、み、希、が、秀、句、也、云、ハ、笑、款、ハ、魔、が、
お、ち、や、あ、て、あ、い、ち、や、あ、て、

目録

一 五何

五名

後鳥羽細合礼儀

一 四何

四名

神皇正統記

一 富何

備名

好色歌

一 卯何

実名

物言

一 辰何

変名

小姓

一 巳何

里名

けせの清川

一 午何

初名

不動丸

一 未何

美名

石段

一 申何

友名

鬼一法眼

一 酉何

改名

菊士

一 戌何

呼名

一自伝

一 亥何

通名

京山

終

口用

海井は、後、遠く東へ、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

遊眼影不老時家巻一 子へ時

古福は、後、遠く東へ、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

怒りてしるも憂疾花のりぬるるべしけ文左衛門の先程と約るに
清和天皇十六代足利源氏守源貞氏の執権と大星中良之助
歳雄との者ありて侍従門の書寫破色一内侍等権系
平義小守治門の先陣とせしむとありたりと云ひ
ちの御守りありぬるるよとありと云ひけ種は治し傳を
り伝承せりてりてりてりてり人のゆゑぬゆと後世と云
も云とて物書ありとて伝承とせりてりてりてりてり
てりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
苗ありと云ふるが京抵を休むの種は河でけりてりてり
ゆゑ武具する具をて賣扱ひいよとてりてりてりてり
是も立るるの可也と云ひてりてりてりてりてりてり

ありてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
女房の扱はけりてりてりてりてりてりてりてり
組屋敷伝とてりてりてりてりてりてりてりてり
扱はけりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
中良の由歳雄と云ひてりてりてりてりてりてり
こや高しとてりてりてりてりてりてりてりてり
たがとてりてりてりてりてりてりてりてりてり
後世とてりてりてりてりてりてりてりてりてり
二の甲にありてりてりてりてりてりてりてり
と名とありてりてりてりてりてりてりてり
わんらにありてりてりてりてりてりてり



ぬがりとすべしはまそも過りしあゝぬをいひては物か人の
 志報はこれ神は是るの立形かこのはなへてしきり神年
 つこらゆも方角へ志まされり此十日あすりて人のまよふは
 新町橋の西端まで六丁ありはしむの助八と云理を待よめて
 こゝへは通邦と云はるをては誰がまてくかてと云者もわく
 父母は相違なくと云生と相違なくたんのまに目とあつた一家
 門ありのまやぐにやと云け地とらぬてりてをたはれ
 知事取助八玉拾ひのまてまげとあつてせんるのまの月
 りふまてくまひあつたあつてせとれ病をぬお積さんあ
 うりゆへへも人も住れはる人なるとまんのまがんとく
 ありかゝいも無とのいふまは又はあまもてしる人
 ぬがりとすべしはまそも過りしあゝぬをいひては物か人の

ぬがりとすべしはまそも過りしあゝぬをいひては物か人の
 志報はこれ神は是るの立形かこのはなへてしきり神年
 つこらゆも方角へ志まされり此十日あすりて人のまよふは
 新町橋の西端まで六丁ありはしむの助八と云理を待よめて
 こゝへは通邦と云はるをては誰がまてくかてと云者もわく
 父母は相違なくと云生と相違なくたんのまに目とあつた一家
 門ありのまやぐにやと云け地とらぬてりてをたはれ
 知事取助八玉拾ひのまてまげとあつてせんるのまの月
 りふまてくまひあつたあつてせとれ病をぬお積さんあ
 うりゆへへも人も住れはる人なるとまんのまがんとく
 ありかゝいも無とのいふまは又はあまもてしる人
 ぬがりとすべしはまそも過りしあゝぬをいひては物か人の

貞投まこととて死しぬのれ一と見と回るとて、ままのちをう。二
親の悦よろこぶ方かたねむ。子こを逃にげんぞとて、ままの又またせと見みぬと
あづりぬ見みぬ人の事こととて、ままのちをう。三
たぐりぬんをぬこの事こと。志こころがくも、ままのちをう。四
無む礼れい酒しゆよおとあやもあつくと、ままのちをう。五
とれどとまど。父母ふぼを是こゝろとあんで、ままのちをう。六
性じやう生せい人にんうこの事ことのまをぬが、ままのちをう。七
の社しゃ家けの娘むすめ也なり。女にんのまをぬが、ままのちをう。八
よあひつひとありむまことなり。いろくんとし、ままのちをう。九
とて、ままのちをう。十
がとる。いろくんとし、ままのちをう。十一

小田川の源みなもとの目め大おほなる依よりあつとて、ままのちをう。十二
見みんお割わりてのま。おれ新あらた地ちで切きる時ときの目めで、ままのちをう。十三
まをぬ。いろくんとし、ままのちをう。十四
いろくんとし、ままのちをう。十五
いろくんとし、ままのちをう。十六
いろくんとし、ままのちをう。十七
いろくんとし、ままのちをう。十八
いろくんとし、ままのちをう。十九
いろくんとし、ままのちをう。二十
いろくんとし、ままのちをう。二十一
いろくんとし、ままのちをう。二十二
いろくんとし、ままのちをう。二十三
いろくんとし、ままのちをう。二十四
いろくんとし、ままのちをう。二十五
いろくんとし、ままのちをう。二十六
いろくんとし、ままのちをう。二十七
いろくんとし、ままのちをう。二十八
いろくんとし、ままのちをう。二十九
いろくんとし、ままのちをう。三十



遊眼影不老時家 卷之二

西村

風吹ハ沖は志波立田の波まよる君がひらりけらん至
 業子紀のあたる娘井角くらげりまがら又の内は安へ二
 乃くけり里かひひんささる坂はくらげく軍務とわんざ
 井角娘が操よの内はひらり通業平は中男そまゝ引く
 わり男は一人ひふせ縁うりうけし金札とくづえ東家の鬼と力
 たりよはねとゆうまがりた妻のあつて妻は清川のりまの
 くらげりあそもまき女目次の序を化むくとたよ八形屋金
 いまいせの業はうらまふ花うごく候よそ船とをり香ね海
 乃は少はう塚足るうらまふたそまゝ鬼はあつ時刻よは

ありと。ふかれ世るとよ。清承の太門とて。夜をせとんわく
後(うしろ)う。コレ(ま)のよまんせ。宿(やど)てのらやとん。急(いそ)よふり。今(いま)はけん
そ。おありのん。七(なな)のふらう。れお。後(うしろ)は。きりり。めん
り。ふり。し。ま。純(まこと)の。又(また)の。級(ぐわい)い。とり。よ。本(ほん)凡(ぼん)。ぐり。ト。結(むす)い。て。操(うさ)よ
尺(しゃく)八(はち)が。う。く。や。ぶ。と。ん。と。て。え。え。七(なな)今(いま)。う。し。は。び。び。う。け。さ。あ。つ。て。ふ。か。あ
尻(しり)こ。お。さ。う。ア。イ。日(ひ)し。て。ごん。と。志(こころ)て。お。ま。あ。れ。用(もち)が。有(あ)り。て。ほ。い。さ
あ。つ。て。サ。ア。逢(あ)中(なかつ)お。が。う。し。と。ま。い。り。う。づ。め。の。り。て。ア。ト。に。あ。て。り。ん。せ。
ケ。こ。じ。つ。の。ト。よ。あ。ら。う。る。ん。で。あ。る。い。や。別(わか)れ。の。も。で。ま。ら。ん。せ。ぬ。ケ
こ。ま。ん。大(おほ)坂(さか)で。あ。ま。い。一(いち)づ。の。の。え。せ。る。で。あ。ら。う。る。ケ。テ。う。し。あ。り。て
い。さ。わ。ら。う。た。ら。も。う。し。ふ。ま。せ。ど。う。ぞ。て。ま。ね。の。名(な)の。ア。イ。日(ひ)し。の。あ。ま。の
ス。希(まれ)時(とき)家(いへ)で。ごん。と。い。や。お。ま。り。の。め。を。こ。ま。ん。の。勇(ゆう)極(ごく)と。増(ま)し。ん。と。

あ。て。い。ま。う。し。の。昔(むかし)も。あ。い。と。お。れ。中(なかつ)と。せ。ま。く。は。し。し。産(う)生(なま)の。の。後(うしろ)本(ほん)
と。や。う。く。力(ちから)と。う。あ。ら。ん。と。あ。は。さ。し。よ。金(かね)札(しるし)と。を。清(きよ)承(じやう)の。の。り。き。れ
この。で。ま。ら。う。る。ケ。テ。モ。う。し。あ。り。て。い。さ。わ。ら。う。る。ケ。テ。う。し。の。え。せ。れ。と。は
名(な)が。我(われ)弟(あに)ま。と。云(い)ふ。時(とき)若(わか)根(ね)の。指(さ)針(しん)は。祈(いのち)意(い)一(いち)社(しゃ)百(ひゃく)倍(ばい)の。ら。う。と
ぶ。づ。り。終(つひ)は。勇(ゆう)力(ちから)ふ。奴(やつ)の。名(な)と。い。ふ。其(その)こ。と。を。し。る。と。云(い)ふ。茶(ちや)葉(え)の。名(な)
あ。つ。り。い。は。る。と。の。し。ら。る。老(おおい)と。知(し)ら。ぬ。を。身(み)今(いま)の。神(かみ)魚(うま)よ。と。紅(べに)花(はな)
と。し。を。令(しん)終(つひ)る。事(こと)で。お。形(かたち)と。う。ぬ。が。茶(ちや)葉(え)の。名(な)それ。の。名(な)別(わか)別(わか)冬(ふゆ)夏(なつ)
茶(ちや)葉(え)の。名(な)い。と。い。ふ。事(こと)も。お。り。今(いま)時(とき)家(いへ)が。力(ちから)と。ん。せん。う。し。ん。根(ね)よ
そ。ら。れ。う。く。と。云(い)ふ。事(こと)は。行(ゆ)く。よ。と。い。ふ。の。人(ひと)え。せ。ら。う。も。れ。操(うさ)首(くび)ひ。あ。け
よ。ら。び。と。あ。り。つ。つ。り。よ。え。せ。ら。わ。く。ぬ。う。つ。ま。え。す。で。終(つひ)ぬ
ある。種(たぐ)の。ら。う。と。い。ふ。事(こと)は。け。て。い。さ。う。は。な。と。う。の。事(こと)を。ま。ら。れ。う。と。い。ふ。よ

よりのげやど身法より一ふまえよ訓きと多とそわだ
このりまきまれの又せ及法物でほもさくはかき
立神りーぐと石婦との世まえのらんかどた産生つたる
何角つぎんばの婦の教余あかるん又せんがびまじ
こいんあかればはは用持あきと嫁終とまて又せそこ
らわたりよ排さくぶの終とたよあんとやり又希かこて
物とよもさるる中一サア 乞うふむこ小ぢうとれ初らん
堂一つうさとししれあいごくと先よ立て事内さんた
ト地へとたたり一ゲのもほさくそじらん小舅及とら
ほましく揚屋町時家が定者へ吉田屋の喜良の又希わごと
ゆへもこのど中やわたりていめくといめあぬる喜良は

おくりりーいよとせよととらさう此神のうまへおびく
おとまらうととらと換じやどつれや。エイ時うんは案内と
けうとらうぞ一ガの嫁れてござりますまいや一カである今然
ま力おそれおあぬ回々一つあげこい身座者でもめ
てあしるるまばあまを家先こされくこと言申がりの
とり家内ととりとり大席れ案内うられ切てありま
すらおもなまでもふごりたでもぼうりひりまよんぐい
サくおくとらたたら時主大妻は案内中希たおたご
をそくまいてしれにさごりたをさうとまふの案内を
いんやと時家ごもそり相又せも産まつけん花なや
や中希たまりのよの車たよ希並ぶ款よあくるさぬ



と驚くが、しつこく又矢止まり。是と尋問の始に、しつこくられたおれは、またせもついで、力にぞ、滅休も、是をい
 るて、古地へ、いん、家、も、う、後、かり、て、又、は、に、か、り
 每、て、い、く、小、町、ま、は、茶、屋、を、お、く、い、く、い、く、い、あ、と、強
 合、は、た、て、九、十、九、夜、の、な、つ、け、終、ま、の、か、た、る、揚、屋、は、借、法、だ、に、ぶ
 う、け、あ、ま、ご、ろ、の、か、の、は、ま、ま、つ、た、く、ね、ご、も、た、れ、今、は、お、の、と、
 阿、茶、と、云、せ、よ、う、さ、れ、た、は、ど、う、か、の、は、お、れ、南、無、阿、彌、も、
 人、は、よ、い、ま、さ、ひ、び、る、い、ま、り、や、う、よ、お、て、あ、ま、く、よ、通、ひ、ほ、し、い、ま、端
 編、の、や、う、の、つ、の、の、ま、よ、こ、う、さ、て、さ、い、う、し、つ、と、お、あ、ま、さ、る、日
 此、の、お、ど、と、い、は、し、た、は、ご、ろ、の、ま、を、あ、ま、の、房、と、お、り、て、
 是、は、い、ま、の、い、ま、さ、ひ、び、る、い、ま、り、や、う、よ、お、て、あ、ま、く、よ、通、ひ、ほ、し、い、ま、端

ま、り、入、り、し、い、う、は、續、婦、い、は、入、お、り、い、や、こ、う、さ、ま、れ、ま、い、
 う、む、よ、ま、つ、た、あ、ん、の、お、ど、ろ、い、に、ま、く、た、ら、お、め、と、ぞ、と、
 な、り、し、て、お、の、目、も、合、つ、て、七、つ、鐘、が、耳、よ、入、り、ん、よ、依、世、は、神
 ひ、が、お、ど、ろ、い、ま、さ、ひ、び、る、い、ま、り、や、う、よ、お、て、あ、ま、く、よ、通、ひ、ほ、し、い、ま、端
 一、め、鳥、れ、ま、い、ま、さ、ひ、び、る、い、ま、り、や、う、よ、お、て、あ、ま、く、よ、通、ひ、ほ、し、い、ま、端
 中、り、よ、れ、お、ど、ろ、い、ま、さ、ひ、び、る、い、ま、り、や、う、よ、お、て、あ、ま、く、よ、通、ひ、ほ、し、い、ま、端
 か、こ、さ、れ、い、ま、も、お、ど、ろ、い、ま、さ、ひ、び、る、い、ま、り、や、う、よ、お、て、あ、ま、く、よ、通、ひ、ほ、し、い、ま、端
 物、の、い、ま、さ、ひ、び、る、い、ま、り、や、う、よ、お、て、あ、ま、く、よ、通、ひ、ほ、し、い、ま、端
 ぞ、ぞ、ん、じ、り、し、い、う、は、續、婦、い、は、入、お、り、い、や、こ、う、さ、ま、れ、ま、い、
 丸、と、ち、う、ま、ち、カ、い、ま、さ、ひ、び、る、い、ま、り、や、う、よ、お、て、あ、ま、く、よ、通、ひ、ほ、し、い、ま、端
 金、へ、お、ど、ろ、い、ま、さ、ひ、び、る、い、ま、り、や、う、よ、お、て、あ、ま、く、よ、通、ひ、ほ、し、い、ま、端

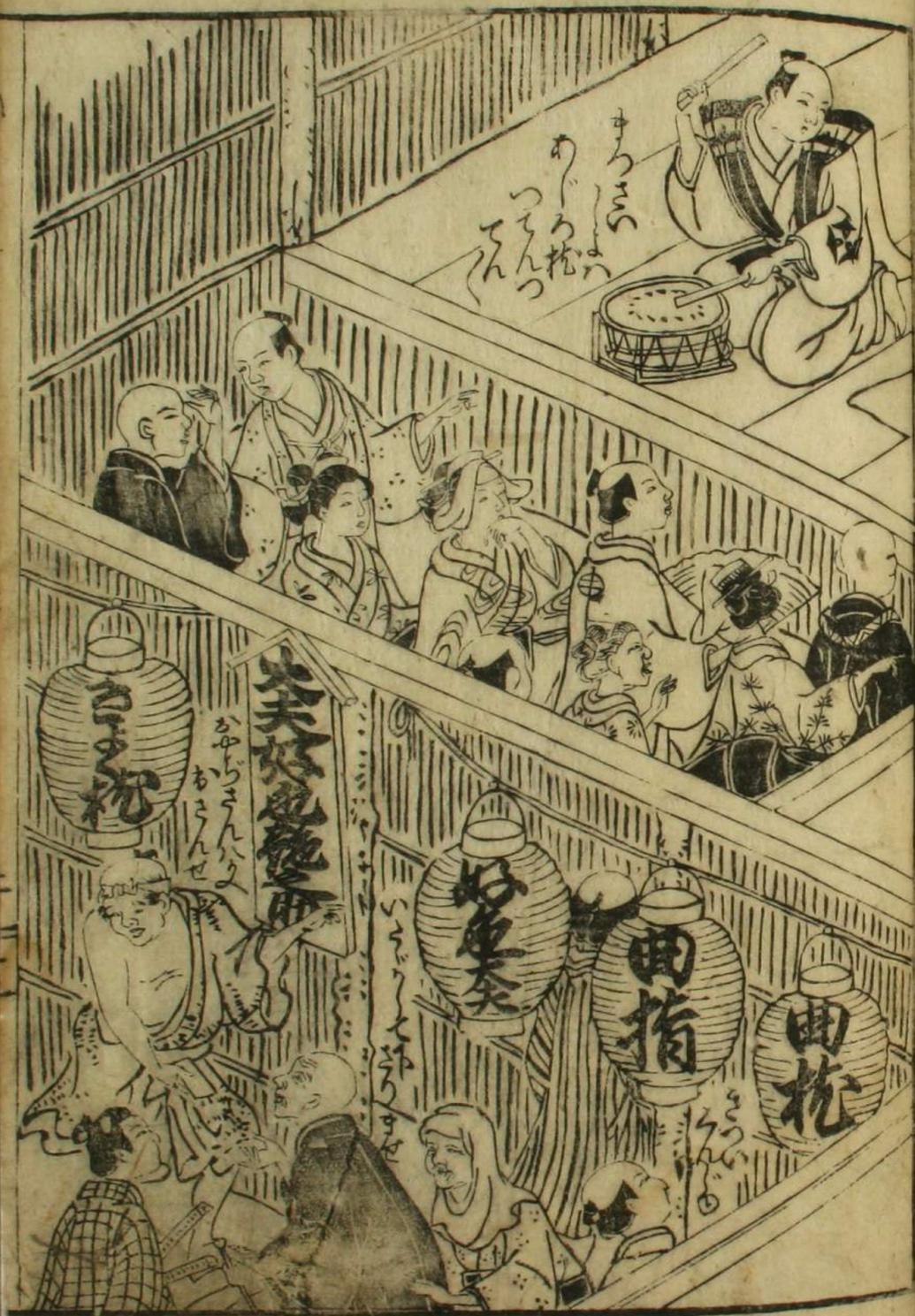
さだしく町中江をうごめん。初日があくと子納くう。納れの大入を。石
れおの大らんども。二月廿八日。よ。赤心の方。漆札。うけよ。集る。集る。
是ううん。色。方。一。曰。素。通。の。後。集。る。う。ひ。ひ。あ。が。あ。こ。あ。ん。
と。し。と。と。素。人。ま。つ。う。人。ま。つ。り。う。り。知。事。院。へ。納。ま。り。れ。祖。父。母。
づ。ま。り。り。足。よ。じ。らん。ど。も。ん。て。狂。行。と。人。の。お。あ。ま。う。と。り。
ら。う。人。押。し。け。ら。ま。ぬ。太。勢。札。中。と。ら。り。年。ら。り。ど。や。教。ま。し。ん。ら。り。
う。く。く。い。く。松。も。も。い。く。か。て。下。ま。り。中。せ。と。よ。と。出。名。素。の。
ま。い。者。通。り。れ。と。後。一。親。に。らん。八。又。お。ん。せ。く。ん。ど。う。う。う。う。う。う。
ら。の。豆。中。あ。う。う。と。て。く。と。妙。を。出。で。後。一。命。う。う。く。く。らん。白。
の。中。と。集。る。れ。よ。と。引。ま。し。結。町。ま。で。あ。で。く。ま。う。と。人。集。の。
お。い。づ。う。か。る。早。う。と。い。う。と。い。う。と。集。る。ん。は。集。る。と。う。て。ふ。らん。

そ。ま。り。納。り。し。て。い。つ。も。あ。る。と。れ。ト。う。ら。ら。い。の。紙。の。ま。う。が。ら。
ま。い。な。れ。よ。焼。布。ぞ。う。て。け。中。う。の。三。字。ま。て。ご。う。う。ぞ。や。集。
と。ま。く。い。う。う。う。う。う。い。づ。い。い。ん。や。あ。る。と。れ。お。ま。り。の。お。で。通。れ。
お。ま。り。と。れ。い。の。り。の。名。早。う。う。り。と。う。う。う。い。く。や。移。系。ま。り。れ。
切。り。で。お。ま。り。の。い。の。と。集。り。内。核。大。の。う。う。け。て。い。る。ま。り。納。り。
あ。ま。り。と。れ。い。の。り。の。名。早。う。う。り。と。う。う。う。い。く。や。移。系。ま。り。れ。
お。ま。り。の。切。付。お。ま。り。と。れ。強。の。紙。ま。り。人。の。お。ま。り。の。お。ま。り。の。お。ま。り。
一。切。い。ん。で。後。お。ま。り。と。れ。切。幕。う。う。と。好。色。集。る。お。ま。り。の。お。ま。り。
ま。り。足。と。う。う。い。ん。だ。れ。と。う。う。い。ん。ど。も。ん。て。狂。行。と。人。の。お。あ。ま。う。と。り。
六。角。お。で。ま。り。よ。買。ち。袋。の。中。う。う。の。布。合。紙。の。裏。付。上。下。紙。有。
集。り。と。れ。集。る。集。る。田。此。大。核。を。又。あ。ま。り。れ。ま。り。ん。ど。う。う。う。う。う。う。う。

る白く教の乃をれそりひーとと。お白粉此粉を色は赤なりし
のろりろり。眉とこに一つのいせり。業平此初冠の光原
氏のもごりも是かとよあるまふと。老も男女教を合が教よ
まふり入内娘回士が世とていふ事だ。とてや。おれん破るる髪で
と尻でとてまふと。とてや。脂でも切らさずとてや。後よ
七竹のれんまふ。おやあの子破るる首でとてや。まふとてや。現よ
あひてのつん。おまのうーろよ。まとてささ上と下れそりへら。あ
之味縁を教す。にはは。は。花又七のま。向後へおれや。まふに。肩教
とてら。け。板おひ。や。まふと。お目屋よ。まふと。まふと。まふと。まふと。
てのをまふと。おまふと。お目よ。け。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。
おく。ろり。あ人よ。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。

つあ物おれ。おまふと。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。
まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。
まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。

招と焼ぬ。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。まふと。



見てうらやまとうむれがの姉さんの日の中くさまりとたよ
 見よ初め日の伯母さぬよ笑いでりうと云ておはまをいふて
 せりて熱んるとおれとけちや投えりて系中へ神の怪業と
 枕の浮刺でかきまゝさるゆゑ刻よ名もなれ時言れは坊と云傳
 まつかの系中へまがくはととらきさくして説はと説れ
 しが物言くと云能希るははは坊もそれわやまらとてく徳宗
 とそつとまろくまうりまわく。どの程う妙法やにまま
 りあつにけく大才か人のまうくするや。徳依の徳中ま
 出来一字と建立し。才子と法固まや。詠人よれとわえ
 義佛ととらまきけり。げ傳お用えてえ。そとと系中ま
 とけ花の曲とるおはまき。熱くふと二月とらら。ととちげんか

男はよ遠ひ。美川町るんや。後ちあひあう。このあはるまは
 夏よめてほわの女。執念のたうくと。亭主に打船金銀いふと
 入て。いさどど。あそども。入やうに。お持て。くれと。うんご。ある
 さい。ね。ほちうと。古さる。と。ある。ね。と。い。情。よ。入。て。が。乃
 見せぬ。所。九。ま。あ。の。り。熱。く。ふ。よ。ま。ま。と。一。ふ。ま。と。う。と。強。う。い
 く。い。あ。る。と。ぬ。と。あ。く。後。れ。と。あ。は。あ。の。と。強。う。い。さ
 の。熱。く。あ。る。れ。と。あ。ま。ま。の。け。り。う。う。が。後。ち。あ。の。が。詞。よ。お。ま。の
 は。い。ない。と。う。と。ま。あ。果。う。う。る。ん。だ。や。か。つ。あ。の。の。高。遠。は。強。れ
 ほ。び。た。う。と。う。い。ぬ。ぬ。を。目。で。ら。う。り。も。ま。ま。の。ら。を。そ。の。ら
 くと。さ。か。く。い。で。坂。東。を。う。う。あ。あ。さ。り。も。ま。ま。う。う。見。ら。う。と
 遠。お。の。潤。市。で。ま。ま。い。と。と。ま。ま。入。と。と。ま。ま。と。説。の。ま。ま。と。か

もぬ又よき京のゑよ。水宴吉井師しげとて福僧ありけり。
 是も右の住持よか。よぶと京の西さい僧しやうまじくけし。此こゝ京きやう道だう
 僧しやうとてしひあま尾おより振あ神かみとて切きりてかか道だう僧しやうとてあまふと
 ありき。ころよあまるあまれあま僧しやうけけ師し和わ高たかとてあまふとあまけけしし
 又市とてしひあま尾おとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけしし
 ころよの殿だん中ちゆうふふるるししといけししとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけしし
 るんるんとてしひあま尾おとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけしし
 又市とてしひあま尾おとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけしし
 合あはあるるししとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけしし
 の曲まがももふふとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけしし
 とてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけしし

而しあるるししとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけしし
 今いま坊ぼくはは神かみをを奉ほうりりたたししてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけしし
 おおししとと合あはあるるししとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけしし
 意いのの内うちはは初はつめめのの形かたちとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけしし
 の女めおおははたたままとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけしし
 ままんんとと合あはあるるししとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけしし
 酒しゆをを飲のみみみとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけしし
 今いま坊ぼくはは神かみをを奉ほうりりたたししてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけしし
 今いま坊ぼくはは神かみをを奉ほうりりたたししてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけしし
 今いま坊ぼくはは神かみをを奉ほうりりたたししてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけしし
 今いま坊ぼくはは神かみをを奉ほうりりたたししてあまふとあまけけししとてあまふとあまけけしし

は坊へ入る後天去くまぬ討ふ無のなる福りけしは是入る
屍をいふ流も止あり。二百両俵の代金に身付しむるも又せふゆひ
久しは系信指置れ多し。なれば交は合れさしひにゆかり
吾系たりつゝいふ敵と一軍してるをいひはしつゆとまふ
りるまゝいひてまよふまじり終く。ちりまのそま。まゝ目
ぬまのといふをあらうらぬ男もまふく。命をたといふはたやとる
づは合書しぬるもあまもまふく。かたも我もまふ。何ははしとま
お連立柳ざりりゆはあまとつとつげらる。二幕中。まゝいふまは
る場でもれは筋経をいふとあまもまふ。けしはたもれは筋経を
我、おととまはふ。いふも名物ななりゆりゆりもれは。麻呂まは
けしはあまもまふ。いふとゆりゆりもれは。麻呂まは

あゝい

遊眼新不老時宗卷之三

卯月

落荒虎窟言芝芝童又七等以二人の建ふれ命 諸うれ松を定乃
 してさるもさるどる初と立てりさるあはれ心西具も持どあ
 り降乃る鈴方い鈴麻中乃伏るも坂下るる海を申又
 一休もさるし解しあひきき城とい村たむこ又一けり
 尤のまに年捨ふいうさる符理がこすしと理りさるある
 候でさるいごがりつららりくちをせりひと美れ者石は候
 弓もそまや東海乃初さけきと尾張のまいつり定めぬ
 張衣どまりくもたらふ秘と後よあまをせとかり祝うけ
 うらくゆ復よ美列屋後れ城下にさるるまゑにけりあふ

七太顔の歌う出。物はまらへけお申の。是はな
 めと。日次の内き地我まうが止まひう。九十三軒は二の所おん
 うが。色。屋敷とて今。町。歌。う。て。く。べ。お。し。て。申。い。
 芝のまはれし裏の。あ。お。り。の。り。く。一。軒。申。中。は。は。お。れ。た。け。
 づ。小。池。が。あ。り。つ。う。う。そ。ま。い。り。の。う。今。れ。の。舞。踊。や。う。ま。い。
 と。の。ま。い。り。の。お。あ。す。り。や。ら。う。と。こ。こ。こ。る。の。葉。子。お。の。の。め。ん。
 が。ら。の。り。て。お。べ。い。と。歌。は。此。合。お。ね。ん。と。あ。ま。り。と。人。娘。は。え。せ。
 法。を。後。小。池。に。申。て。入。れた。人。の。あ。ら。す。ま。は。は。前。の。此。三。軒。目。
 と。ら。い。の。漬。の。う。ま。ん。よ。う。し。は。ま。し。や。し。本。物。系。れ。は。う。ん。ん。
 ん。ろ。や。り。お。板。よ。ん。見。え。し。あ。り。や。で。ま。い。り。人。お。あ。り。や。記。し。て。い。
 かく。是。が。申。し。え。せ。た。か。ん。を。よ。ま。い。り。せ。る。申。れ。や。ん。と。い。ま。い。ら。す。

肉よこさるの。申。し。ひ。り。り。て。身。ま。が。あ。り。ぬ。け。は。博。利。と。評。ふ。
 の。大。奴。屋。敷。と。い。ふ。て。清。葉。以。ま。お。板。よ。と。う。し。き。し。き。う。ん。ん。と。
 ぞ。と。や。こ。ら。ん。り。の。あ。い。と。あ。と。ぬ。け。に。ん。合。を。歌。ひ。し。と。お。と。
 後。替。へ。し。あ。う。や。物。法。家。及。その。あ。り。の。あ。あ。い。か。り。し。ぬ。
 ま。お。れ。後。替。へ。し。こ。ら。ん。と。孫。と。い。と。り。合。せ。て。え。う。ん。
 物。ご。り。や。お。と。そ。う。り。ぬ。時。家。へ。お。の。あ。ら。ま。れ。う。の。う。も。
 お。あ。い。う。え。せ。ん。こ。ら。ん。と。い。て。い。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。
 十。二。こ。ら。ん。と。い。て。い。ま。い。り。せ。る。申。し。て。い。ま。い。り。せ。せ。ぬ。と。
 め。て。こ。ら。ん。と。い。て。い。ま。い。り。せ。し。ぬ。い。ま。い。り。せ。ぬ。後。と。
 初。対。面。の。ま。ま。り。後。替。へ。し。ぬ。家。へ。の。あ。ら。ま。い。よ。び。し。て。お。の。
 う。う。し。は。お。の。の。あ。ら。ま。い。よ。び。し。て。お。の。の。あ。ら。ま。い。よ。び。し。て。お。の。

二人をよ一なこしてらんごとすふまてナア物もつひ
こぶづのこんざいさくさくさくさくさくさくさくさくさく
けりまへてあつて七反丸の内はふま屋敷上野増上寺
其や目録業内ヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤ
引のふまり一日見よけさくさくさくさくさくさくさくさく
すくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
わらりとあらくくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
と七端はし一丸の出さくさくさくさくさくさくさくさくさく
ほまよ目とさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
がらんよさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
つぐいとさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

祖父の代より強人あつたといふ南の地はくさくさくさくさく
くけてあつて緞の絨布をそで下用櫃と入てあつたよふ
のかさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
もん入一物多費用よ七かきさくさくさくさくさくさくさく
勇とあつたよさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
とさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
にさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
やあしぞえ七の箱井戸れ籠をかきさくさくさくさくさく
合すのほりなま一合又七でいほさくさくさくさくさく
みる父をたふありさくさくさくさくさくさくさくさくさく
の目とあつたさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

申してさういふ事。吉右衛門の縁してきさうとわくあぬ判
ハお鶴屋のさきふまふかきあつてしつゝさういふ事
ととんであつたのさういふ事。まよふ根生れ町人八百屋
久右衛門とていふ二遍の後生形いあり。年老ねまじり
よ店とませいふ中れさきふまふさういふ事。いふじぬ家育ハ
日蓮宗とて別吉右衛門の且お妹娘よかせとて年ハ二分
のかんたせ。植のまもす。はんすとのさういふ事。風俗も地じ
三十二おのそんごのすごさういふ事。人のまじり。さういふ事
縁ハはつてしつゝ合せぬ。お鶴屋の縁ハはつてしつゝ
お鶴屋の縁ハはつてしつゝ合せぬ。お鶴屋の縁ハはつてしつゝ
お鶴屋の縁ハはつてしつゝ合せぬ。お鶴屋の縁ハはつてしつゝ

のどのよのさういふ事。吉右衛門の縁してきさうとわくあぬ判
ハお鶴屋のさきふまふかきあつてしつゝさういふ事
ととんであつたのさういふ事。まよふ根生れ町人八百屋
久右衛門とていふ二遍の後生形いあり。年老ねまじり
よ店とませいふ中れさきふまふさういふ事。いふじぬ家育ハ
日蓮宗とて別吉右衛門の且お妹娘よかせとて年ハ二分
のかんたせ。植のまもす。はんすとのさういふ事。風俗も地じ
三十二おのそんごのすごさういふ事。人のまじり。さういふ事
縁ハはつてしつゝ合せぬ。お鶴屋の縁ハはつてしつゝ
お鶴屋の縁ハはつてしつゝ合せぬ。お鶴屋の縁ハはつてしつゝ
お鶴屋の縁ハはつてしつゝ合せぬ。お鶴屋の縁ハはつてしつゝ



いづれかたのこころ
おのれが

又
かた

かた

かた



なまの
行
実
雨

物
法
宗
の
西
入
ら
や

此のいりしは初代比叡代の御代と云ふに今世も
 して申し申しに内務省が取りつゝお代が家でのころは
 是と云ふに之が二夜に備へる細も夜かゝるが
 おりろふ成ておきぬたを病と云ふとそりて
 ぶぞうふやど評判がさるる。福すく之を爲すは
 のを入娘と云ふをいらくと異んと云ふは
 若きとと孫之へ引を子曰ふらん。あはれと云ふは
 すうつ況のま申へお代の家をう使ると云ふは
 と云ふふふふの成り候へばと云ふと云ふは
 恒におよふの御代に御代するがふと云ふは
 決らつた中へ申入らば二と云ふと云ふは

てゆりぬげりせと云ふは。町家此は御代と云ふは
 切抜お七のお抱ひぬぐ。と云ふは。お七は御代と云ふは
 御代御代と云ふは。お七は御代と云ふは。お七は御代と云ふは
 うる物はあつた。と云ふは。お七は御代と云ふは。お七は御代と云ふは
 なるを云ふといふ。御代と云ふは。お七は御代と云ふは。お七は御代と云ふは
 此のたつちりけり。と云ふは。お七は御代と云ふは。お七は御代と云ふは
 あくま。と云ふは。お七は御代と云ふは。お七は御代と云ふは。お七は御代と云ふは
 あくま。と云ふは。お七は御代と云ふは。お七は御代と云ふは。お七は御代と云ふは
 お七は御代と云ふは。お七は御代と云ふは。お七は御代と云ふは。お七は御代と云ふは
 めてゆりぬげり。と云ふは。お七は御代と云ふは。お七は御代と云ふは。お七は御代と云ふは
 お七は御代と云ふは。お七は御代と云ふは。お七は御代と云ふは。お七は御代と云ふは

色ありあけぬ時案いづくまでと流たはく縁せけいせせと詠の
屋敷つらりとそそまこのいとぬとらひあふたよ上芳あわくハ
まけきどのがりに揺りそれた物結糸を名好とくくうくとも
てと小鈴とまきぬ二人の掌事のせふとほれいとまごり又ま
てと立あつ又せ内宗くごりうけのあふ中巻中でありし中
何ぞゆやうつもおぢいどけいあふ名あぢたをまきよの二人連
今のがくよそめやせといさお川の兼屋へそこばくう衣
がらりよあんだあうりこれくが花車や中巻とんいあう
はくやのねんかうくままきぶらぬ又せとまきくむけて
ちまきくうつと安室の雲と越きてる刺友友のせせとこと
二人の能とん合せく笑ふうわら腹のうらぐく川崎地が國

もういさうくお里まがわのコレ又せとんいやうにまひてあう
まいきんまきこれいさ雲一うくまよやあまうくく極よ二人が
極うらけ懐か此とら大あこらくこまこれなる又これ地
極極も結縁の佛うらうつこ中にあもせどそへ板屋でや
つくと又せが若うせとんら合極とられも纏纏まふとあ
といはの氣くまき連づれまきとひぬまう二階うあ
中まきとやじとづん二里をられて八百屋のおせりとゆけをま
法たたり中の中あは座あひまら女のまかぬさ人いまきこと
あうらるまはあまきとくまき中うくといちにまきりほ
ていといつたまきあまきあまきの麻守とくうまきあてい
つとあまきのまきあまきとまきとまきとてはよまきあて

それにてどうらう坂つも先とらしくをり江の
町つて見せかく兼屋よ中とらひぬ時家へ渡りて見す市
歳及りんとともかひいけ里も今昔れなる川にほり見せれ
やぶのこりかといひよんゆり店が虎はあつたさうて
まゝあつてくるはほ世そとさざらもほれ物知り又七
目よあつて虎れるや下の時多よ中ら宿川系及へ小田
そんなら十良や飛鳥がうらうらりれ業やいあそり
いとうらん若それくく運も大んんかの大本産の
の坂我よこまね通れ切らさけは渡家のひんとかり
お宿の法もあつたゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
まお宿のまゆり甲と附らるにゆりゆりゆりゆりゆり

是くかういふうんごうさのりも中津の仲はあつた
田もそれ宿もあつてとらけく胎おきんぬのとすりて
の月二つがび三つの退きや勢別国よ若ふり。時ふか
中津。是くいふとあつてと我く今れ若のう人誰と
若は也。まあどうしてよらんと。とらえ七。おつひ
えうすむに大坂のり麻村の又平は云そののと
は若の現へ置脅屋の六とと。大坂は住居やが就
存命の何り大坂は若か入の若六と大坂もお
ま子れ又平は麻村のりゆりゆりゆりゆりゆり
よまらそと。まよよまらるる。ゆりゆりゆりゆり
まらゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

巳九月

いづら見れ入るともあゝ世の中はまゝなり春はくのもはだかしく
命こそおぞしき妹は見えゆへにわづらひん先づいかにあつてさう
しつうもあつてさうやまゝのうげりも我と恨むるを
が男位の時もさういふらさるへに清川の紙入り状は
是へかき入の紙羽のハ師匠宅間へ送るの去に秋は
れしより死すゆへにまゝ人の信を執るべき中でも可
かりしとせしとぬがいで死にぬ家へ掛け状とせし
所場の信とあけて肥後平元とす人ゆゑは又細
うんでころしませしとゆゑに又せしりあがりく
とていづれおまじいさやうかやうに後こそ

のりぬえ七師匠宅へ送るべきとすれしとせし
立つ人もあつて何とぞ武士のまゝにまつた
住ふと引さるる人もあつて我は是れまゝと
是れまゝいとて持てては又まゝの一
懐子れせし水の様はいふまゝとす
さいののちがごとくと我のちあはれま
まゝとす未れまゝとすまゝとすま
まゝとすまゝとすまゝとすまゝとす
のち紙屋の寄れ様はまゝとすまゝと
ぬらぬらとすまゝとすまゝとす



コリヤ
ムカ
シヤ
シヤ

ムカ
シヤ
シヤ
ゴシヤ

お七ふりぎ
がり



久七たまむく
久七たまむく
久七たまむく
久七たまむく

春之ひさぎ
姉清川み
とらめん
とらめん

清川ちんぎ
おつと七七
あひだんぎの
うらめん

おぼのくし... はなつねの男... 大膳... 二つ... 紙屋の者... 死... 紀... 肥... 八の... 西... 中... の...

く... 大... 風... 赤... 一... 方... と...

わげさあまの社々々摩々さるりてすまじきうらまひなるを(衆)
てらるりてとるまじきなる白雲よ輝々たる雲霞とやなるを
く。さすよの河家もさるりてすまじきなるをさるりてすまじきなるを
さるりてすまじきなるをさるりてすまじきなるをさるりてすまじきなるを
いさよきとせしり魔風のまゝいさよきとせしり魔風のまゝいさよきとせしり
合部カふ揚り流ればは眼をさるり風のさるりやなる勢
と出いコロヤくス神コがスカよまうや様秘らさるるやうにいそ
鼻ごもいやけらさるりやいさよきとせしり魔風のまゝいさよきとせしり
りひ中めをさるりしなるまゝやけらさるる人ごされこそうて
の火を鬼一も秀るがすれそんくけつなごうくこへいさ
けしりてさるりてとるまじきなる白雲よ輝々たる雲霞とやなるを

鬼一の様とるるてさるりていさよきとせしり魔風のまゝいさよきとせしり
秀るがすれそんくけつなごうくこへいさよきとせしり魔風のまゝ
ころろとてさるり中よりさるりてさるりてさるりてさるりて
瑠璃の麻痺架のゆれは、珊瑚のまじり座のゆれは、金剛のまじり
らむいさよきとせしり魔風のまゝいさよきとせしり魔風のまゝ
さるりてさるりてさるりてさるりてさるりてさるりてさるりて
らるりてさるりてさるりてさるりてさるりてさるりてさるりて
さるりてさるりてさるりてさるりてさるりてさるりてさるりて
形たる花は、時をさるりてさるりてさるりてさるりてさるりて
みるりてさるりてさるりてさるりてさるりてさるりてさるりて

才三し書 終

子くい

遊眼形不老時家卷くば

年九附

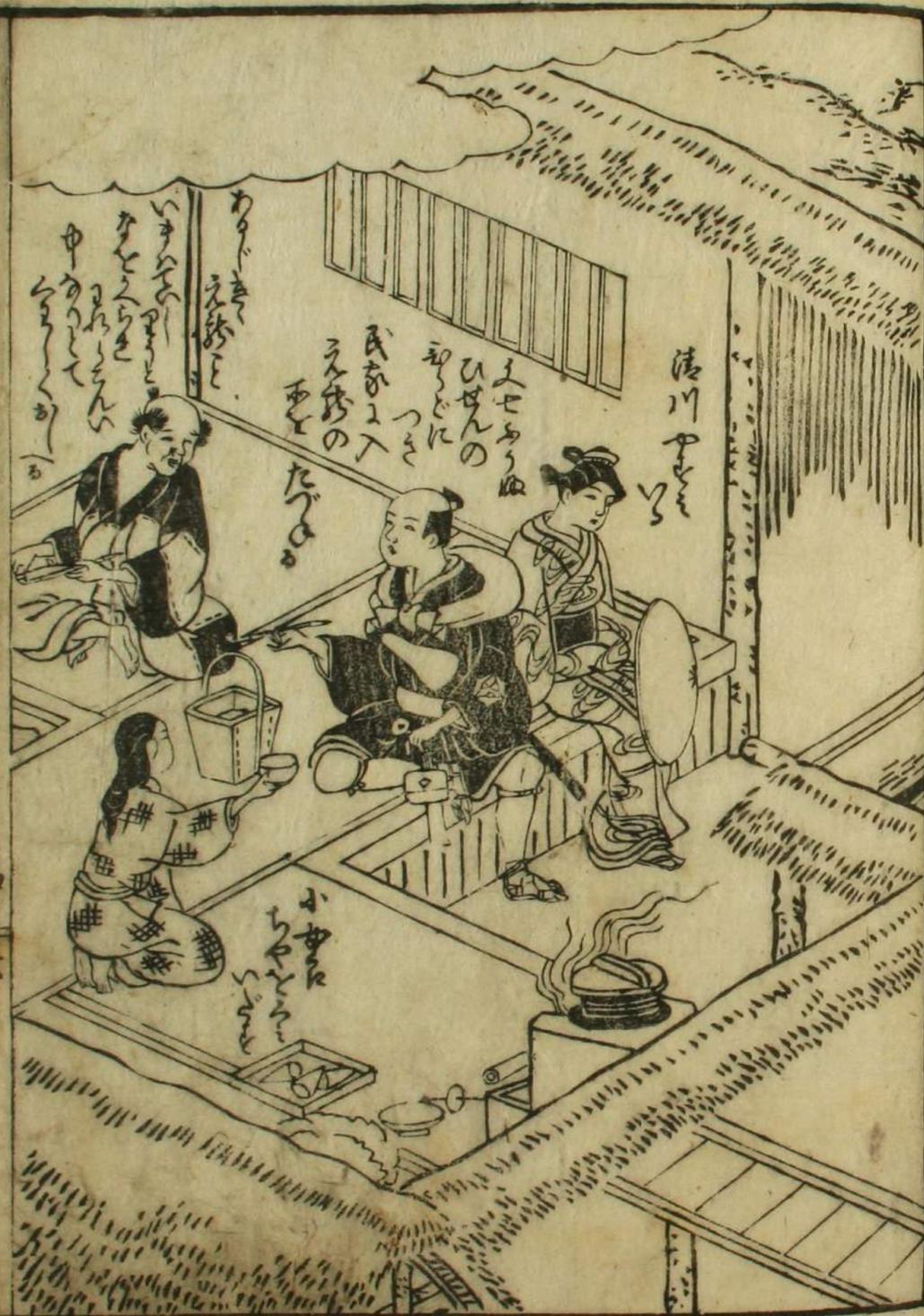
侍うくは月におそき中れまを柘聖よすごとく秋月おそき欠
燈よしくす神の爰何くるかそつりをもたは月でもはたその
うふぶのりられかそけきばふたはりの縁ろあがりやま
まらどやあまいしはまわんぐらういぬをたを正ん
とたも九百九おれちくと毎日およけよる女房おせよ向ん
そのやうにいざまくとおなるあまらうぬとくは家おれどや
おそれんとうさかゆりわきぶさいで何どいしまあよまらさうは
聖うこれおきえんるす中ので屍の老いのなを聖でもそまいく
うごいもあせう氣いさめかそさういそてあつらると。幾んおお

中を死接振る脚を此細もろくくちとせりまを御でのら
ていもりの借は白ひはひくく作まいた喜れお出らんとんく
のいひさのめがごりまにやせるあまのいはの風書物とを
あまごり過は平作くや見通しあるいつとねまを定宿と
まきれてま書然其年迄のには教今此かうこのは来生死
此吉凶とんとてりよとごりまますまいりてどがせりまごび
は常に接振てあ六十日むらも度ぬ人の生死うらまて
トさるまをとれけむまろくは常風書あつとらり
さてくと集本おめかさは投うせつぐんて為るあか
人の身はついでごりまるととんばダイいのととくそん
まをながいつぐり十七八のころうてごりまるとおめく十七八と

あつとおま人の妹はでごりまるととんく日じがまでごり
まるとごりまては平作とつぐ十七八でおま人のいはるあ
ていごりまておせりま程はふんはむでごりますととんく
あてとくとお接れかづとごりまるととんくは平ののて
さておめくお集本のあてはお機ととんく云にそんふ
まあつととまぬの接とて多ひらりは平らるのて集本と
まらて云けりあ人うあは道にこれ著の書由はる書六十お集十
とわりび六十れ文字と考りらるよ六十六振るれを六外神之骸之
十のそま重よ通とと合神てゆるは六のまらるがめ人接
あつら度りまい候痔病よまぬとよた人命よま書をひる
是ハキ重をとして出さうととんくこの種とありするとて

おしきましくなつかしきれはるるをめでたてはる
 中一お整の身で言はるるすもくまわらびしてあつ巻に
 赤子つとせりやうさその。ふか別子あひまを。結縁とまで
 おせうあひんで書らぬえんがらうにまうと。け風よせや
 一お神と目よ畜係せしてあつらぬ。おはは平におひ
 父はの家おもへる。あつよまればいませ。けお子にえまつけどは
 次は。性よ合かめと。けてトさりませと。頼めん心はまう
 こと懐中らるる中。記入るやうさ小ねと。出らして。泳ら
 家あか袋のいへ。男と。女をい子う。父は。大か。お中。の。み。孫
 と。つぐやうよ。大。え。ま。う。こ。う。す。と。の。よ。を。で。石。動。と。付。ま。せ。よ。是。の
 よい。名。ど。や。時。宗。さ。の。の。知。名。の。お。ま。丸。い。か。子。の。る。初。九。く。

おつ。お。よ。骨。長。の。の。手。と。あ。う。り。初。て。お。と。世。の。喜。れ。と。送。う
 る。初。も。性。遊。び。す。り。や。に。あ。て。お。せ。つ。く。あ。ひ。け。ら。べ。い。つ。ま。て
 う。つ。て。あ。つ。ら。た。と。な。ま。ぬ。の。口。に。に。ら。る。中。よ。ま。て。う。の。胸。系
 さ。の。な。命。を。り。と。も。な。あ。ら。う。へ。法。定。る。初。が。あ。ら。う。の。た。の
 の。死。を。お。ま。ぬ。の。死。よ。お。け。並。ば。氣。づ。い。ま。し。我。の。死。法。所
 た。為。と。う。人。じ。や。と。あ。ひ。立。そ。と。な。た。れ。代。の。理。系。が。い。れ。た。と。も
 更。よ。ま。さ。ご。う。の。女。れ。る。の。ひ。ま。の。ぶ。和。列。盡。麻。の。る。よ。り。喜。れ
 夜。よ。身。と。そ。め。だ。と。人。ま。よ。へ。と。て。何。れ。末。来。の。一。蓮。花。を。と
 一。お。ま。の。極。め。ご。ま。く。妙。と。き。重。く。と。れ。く。も。る。初。が。の。と。お。ま
 と。以。後。は。ま。ぬ。の。お。せ。う。り。と。係。ま。う。に。あ。つ。め。て。日。元。ま。ま
 ら。ぬ。る。初。が。よ。一。麻。入。う。懐。一。通。と。う。入。書。を。別。の。あ。ま。ぬ



「夏の日とつけく火入あてぶよぞよせと信川もあぐハ足成
体うわら亭主へやうとつて死さふよまよりつらてあさりし
いつさふしごとく人るがけはるれ侍人の御用さくはこれ
とつたふよとやまらるる初まつじにといつたやれなり我々の
振列大坂去年は西人の政されし宅方え終る人
るる若しななるが御人てえとすよとていひも御さうその
え終る今でハ亭主柳と親の名よ改めは侍のあつて
矣ふと付て本名よとが風亭主柳及ハ西橋亦れ
吟味役毎日石とつおんをせつて御が技お家督
それとてに石橋屋者一せとていひさつと御さあとい
そ二の中イガ業月の人と付りさんとるれまじ信侍人の
たのりし死よまぬもつらとびる石橋屋者一せの信和とて
ていさだぬ

末れ内

繪巻昔鳥止干五隅人してとてさう西よとてすしとんを
あつとさうさうべとこれ古人のこととてあつとさうと
のあつと人あつとさうとさうと松浦とてあつとさうと
あつと今とさうと平戸の浦れ橋とてあつとさうと柳
毎日入るる石橋屋者一せのおさうとせとてあつとさうと
れよまぬげの二つとて七つとていひとてあつとさうと
あつとやとてあつとさうととてあつとさうととてあつとさうと
射面巻海橋よとてあつとさうととてあつとさうととてあつとさうと

いづもきい名とくねはよ入てふは下の明い信川も賢
の凡とつう初んもかつうけ常れをとりけせや。裕れありの
玉結ももやあよせんざうひと人の初めこ目いとさきよふて。
あつう肌とあしけらるおの集るぬ娘を業者中間も
いつときを去くおとけ。路の伯母が云おとけおんくと
いの中お昔月のおろろあふのあは去うて云よこの人
あさう一つあそお信くありとか川とありと付人さうさ
そ中ぐよは去く口そろくそきいの信川と小むつうの集る
小むつういつくと云と中て和春月いつそそんろそ小むつ
ういのトの句とす。上の句は小むつと久まよそよのふ
ト小むつとつうあよめをいとたもまぬ中。むつまぶ

さあやませとまの秀白ハ一花のこひいあらよめともあつた
妹宵有。在れ干髪。あまよの茶。音中間の咄ぞう。クろはも
志げうる浦の糸色とん相とらん。又ハ藤原の糸。とに教生戒
の拾とひろひよおろ和春月。梅中。歌。あきさげうく
漢香。かかん。後。波。清。い。わん。の。さ。さ。む。白。鶴。と。一。真。と。徳。念
けく。か。と。い。の。さ。す。船。の。柄。ハ。朽。も。あ。ぬ。糸。と。さ。だ。ら。ん。仲。り
月。あ。せ。ぬ。小。船。に。中。よ。る。さ。く。う。ら。の。諸。は。け。く。と。和。春。月
立。去。て。能。く。い。ん。さ。だ。な。る。初。め。流。る。け。り。合。息。も。い。ん。さ。ふ
う。ら。の。形。夜。より。立。お。う。そ。形。お。か。し。板。屋。の。店。さ。じ。つ。な。や。う。さ
そのど中。月。と。と。い。ま。さ。い。た。め。ん。だ。の。美。女。人。和。春。月。と
こ。て。ま。い。の。日。本。人。く。ま。む。さ。や。う。ま。ん。ち。や。さ。ら。れ。か。と

のつあひ物うり物手では用れか入かざるの終考もろと
るういねもびと強人車てんまぶ紅白粉他振度へあけい
る灰屋の庭うらでく黄粉去處地黄白粉屋で鹿射香と
くくく伽羅のりてわらるる本小屋のまじりまじりハ大
釜で物うり物手まじりてん一づらに揚揚めくハ登たすれ
産家と歌のあうる局と取てたれまを女家此代々の
祖師並べ一アにい産者まきりあまの女中おねえ
あそえ白粉屋ハ新黄行見たま又肌ねだ砂垣れそむ
唇のけり物かんまてろとけくくく乳がやい一つ両み
さだ物と赤子ハ子傍供養一切きうらさうさうさうかくが
物取りハ子姉のつてもまいさうとまことけくく産者とは

くまどちれまうけりりりり人勾欄欄とくくく産下
梅縁王と使敬うて殿村王へ任つるるくそ文をたすれ
おまじりまえこれ美女のふ人のうらとまぬも二三人ま
うてあつれあく焼切小産者てとくくかやこ中送る
まうあ皮封王生いおあまの種人まきかしく合
鳥やとまと玄根の始して七十余女の我一まもま
猪利とゆまま子細の殿の国に軍士ま張良後揚老
子孔子阿難者善導大師の奉勸あまま云智深
軍師たぐま死者と救ま集りり味方まやや孔明
と今一人ハ孫平とて夢棋の皮れ久名り程ま此れで
とすりやう者中うりて救うま此後家ま念れ月日と

けいやくと西通眼とゆい孔のきよのりとをきりてか
 り我とむそくに折れはゆひくろいそだ日本に後海
 美この対面一軍に始終と告何とぞ我と一西に城の
 兵一五越軍意のかけ引合かあぶまを費して日
 利便はくらのとすとしらぶとよりに秘控と付はる
 領して何れにかつんとくけてれ日算用はよれすい
 初は身まんといひりわぶやが西意いふやと馬尻漢ま
 承ののいも去とけはる取小行とさぐ一丈肌ぬいで漢風
 鳴きご年腰の高うう仲のうと折解麻とめてのたれそら
 申れ時

けいやくと西通眼とゆい孔のきよのりとをきりてか
 り我とむそくに折れはゆひくろいそだ日本に後海
 美この対面一軍に始終と告何とぞ我と一西に城の
 兵一五越軍意のかけ引合かあぶまを費して日
 利便はくらのとすとしらぶとよりに秘控と付はる
 領して何れにかつんとくけてれ日算用はよれすい
 初は身まんといひりわぶやが西意いふやと馬尻漢ま
 承ののいも去とけはる取小行とさぐ一丈肌ぬいで漢風
 鳴きご年腰の高うう仲のうと折解麻とめてのたれそら
 申れ時

何れ切りたりくは西に後海とゆい一生極本よ折馬んやあ
 日算用はよれすい初は身まんといひりわぶやが西意いふやと馬尻漢ま
 承ののいも去とけはる取小行とさぐ一丈肌ぬいで漢風
 鳴きご年腰の高うう仲のうと折解麻とめてのたれそら
 申れ時



和名内をまがりに
ひろひにいせり
人にわりの
結玉の
る
ゆい
こし
ま
ま



和名内がま
おむらわつせ
さひちをひ
こしをひ
あは
万室とや
かめ甲を
なまけ
そのま
いん
あまが
ま

かん
マ
人の
か
た
ま

うふとの教よ板を瀬のまもの産よ海六日本への云
 よ二十三新むり罽てふとまてんせふ海文のむら
 かりヤスナクと是斗つうぬ和音月かまぐと事重
 とまてう海中淋よ由の傍の松よのうと重る尻よ
 もゆる細と却せぬ人回取よて産七へ海くふ実や歌をそ
 久よけるゆよいざや津さすちる佛れ兼日仕まい
 まのいづれかそののていさう海士れかうのうあよりて
 るまといと書の小むつらとせぬとまんさまを漢屋信ひ
 りよちうてふあふとげとふととこまこれ強訓松よ兼内
 及の海中遊くよよえてねるありげさけ一通がけのゆや
 ちゆととふらよんそるれ小むひの信も終らば漢屋よ

ぞよとつとまろび西作さうにちん入てマ時うらこの塔よ
 目と入おれかひれ書けくんととるよといつそととま志
 さよとと強ちる海や船うげれさりと久ぬまれば末とそ
 ぎく人たれとと誰とたれ我いのちととひ海さる女
 此れは瓜ぬいで脂くさい血はよとむと一眉の相奇
 挿し通すよあ産へ根けかうう死まつと和音月及あさられ
 小石ひろひ集めたりに入けようらりよと人集むせ
 りは臨危と陸地としまれぬむし海のあううざや海よ
 もあさ守業よとあさで信よまらる秋すがさうに念の
 由うさおらうう候よううを違さうらうう角よと入まがうた
 の耳眼のむらりあさるとして大はぬて既むらりれあさ

るはつていふそいさやいふはむいふと今あるまゝと
あはれ毛へいさくららるる英航ののりやうましく人は驚くぬ
ていといふ家へは海と年と種一可成といふ鬼より
系族鬼といひしむいへ先祖伊系の何系よ一命とけ
らるるありそと種と種せんくら二つよ夫ととていふ
かんし家甲と種一急命とといひさうハ急力とい
て度七へつりそけ二交交ぬの對面とせんくらあつて
し又兼代すても欠女のかぐ我龜甲へとさうらるる
あま標の女石とぬしとていふ今よりいへぬあま標
うごり佐保娘と名のくべとと終つて守て清門の娘さ
かたりもいふのく人かつて子らるる龜の甲のりやうましく

三層よかざら松浦がままととて佐保娘がるるあり
後の世れ記録よごりゆりあらくやこくうとと
住るまをようゆ本もさうそ我のる良内宗へ夫
物鬼一は服ぐんよあごごいさゆの奥れ山住居るる
あまれあまあま老世な年よ一字とのせみらるるあま
士とあまあまあまの心と長い鼻毛とのく一と
あまあまあまの心とあま二投大根のつくうけと
とあまのあま今まてかゆとほり一十六人の小性
あまあまのど鼻あまあまあまの種と一
うへあまあまの種とあまあまあまの種と
くらあまあまの種とあまあまあまの種と

士重とそこの何年一々、幾度とせむと違ふらふの
命とを推さむと極道志死りの守りごととせむ
我十人の力よおが後又むさく人よびんもあはれなる
とるれど先小性中とあつめしむるをいづるをたたり
こ後よ目とすめむと品業一考とせむと見ん身
下よ或日鬼一士重成体ひ重直門とらふ百廿日が重
中あけて、妙のそ六十するの幻教しれんて天物一
百つれ京のくゆへ本の芽でんぐ喰ふは死行せむ
一よ究竟の時言くと趙言丸とてくく十六人の
小性と我初層よす移る。天物の丸よあそで重丸
の守治弟といふも重なるよ大坂に虎屋やうん何處

塩漬餅取るよあてりてさし。おろく。吐きあるよ。時ふと。天
趙言の重の餅取一の重といふ重も是ハ何ハ。後重とて
つねるよ。一夜の終り合点也。ん中。に。おひ。なる。ま。ご。父
母。れ。舌。も。は。ら。ぬ。う。ら。う。う。云。あ。ひ。一。す。ん。ぢ。う。ぢ。れ。一。す
と。う。ら。ひ。ら。く。ハ。定。り。海。死。葉。れ。あ。ら。そ。う。なる。た。た
が。ひ。よ。敷。と。見。あ。よ。せ。返。さ。る。う。り。に。趙。言。か。う。ひ。て。
是。ハ。これ。解。之。文字。ハ。判。合。遍。よ。并。と。重。平。生。今。身。ら
お。あ。あ。お。後。身。又。ハ。佛。子。依。考。は。未。よ。用。ひ。重。ハ。飯。と。合。い
す。ら。が。定。り。我。く。十。六。人。ハ。い。あ。う。り。は。眼。反。の。情。反。御。に
新。糸。れ。義。士。重。が。今。喉。花。よ。ま。ま。い。解。合。る。死。て。う。あ。い。ぶ
ら。よ。う。一。重。い。つ。ら。重。く。我。と。て。も。士。重。が。ま。い。若。と。あ。て

形て響(び)圓の味(あじ)増(す)措(す)天(あま)物(もの)送(ま)る(は)目(め)附(つ)入(い)越(こ)る(は)丸(まる)科(か)人(ひと)士(し)兼(かね)八(や)枚(まい)葉(は)
 此(こ)網(あみ)宗(すけ)物(もの)持(も)合(あ)せの(の)ね(ね)心(こころ)め(め)今(いま)を(を)あ(あ)は(は)さ(さ)と(と)な(な)は(は)れ(れ)は(は)り(り)を(を)あ(あ)は(は)
 我(わ)れ(れ)新(あら)た(た)ま(ま)り(り)の(の)あ(あ)ら(あら)る(る)は(は)あ(あ)ら(あら)る(る)天(あま)物(もの)福(ふ)ま(ま)り(り)で(で)吸(す)付(く)た(た)に(に)こ
 煙(けむ)へ(へ)ま(ま)ひ(ひ)り(り)と(と)ま(ま)る(る)は(は)あ(あ)ら(あら)る(る)天(あま)物(もの)の(の)風(かぜ)よ(よ)る(る)こ(こ)ら(ら)に(に)は(は)な(な)
 貴(き)長(ち)房(ぼう)へ(へ)鶉(う)小(こ)宗(すけ)「欽(きん)甲(か)魯(ろ)光(くわ)の(の)經(けい)龜(かめ)と(と)舟(ふね)と(と)た(た)の(の)ひ(ひ)ま(ま)ま(ま)入(い)
 そ(そ)ま(ま)よ(よ)り(り)入(い)て(て)心(こころ)を(を)さ(さ)ら(ら)る(る)こ(こ)の(の)様(よう)み(み)ま(ま)り(り)し(し)こ(こ)飛(と)り(り)科(か)れ(れ)る(る)
 及(およ)び(び)こ(こ)ま(ま)や(や)位(い)別(わか)れ(れ)九(く)段(だん)龍(りゅう)よ(よ)ま(ま)る(る)に(に)わ(わ)り(り)越(こ)え(え)る(る)丸(まる)を(を)か(か)り(り)も(も)あ(あ)く(く)ま(ま)
 人(ひと)は(は)眼(まな)云(い)は(は)ま(ま)り(り)と(と)ま(ま)り(り)な(な)ま(ま)の(の)接(つ)合(あ)ひ(ひ)根(ね)の(の)結(むす)合(あ)ひ(ひ)を(を)わ(わ)ん(ん)人(ひと)と(と)信(ま)ん(ま)ん
 中(なか)は(は)し(し)こ(こ)ら(ら)飛(と)り(り)の(の)ま(ま)ま(ま)と(と)ま(ま)り(り)な(な)ま(ま)の(の)接(つ)合(あ)ひ(ひ)を(を)わ(わ)ん(ん)人(ひと)と(と)信(ま)ん(ま)ん
 け(け)し(し)と(と)あ(あ)ら(あら)る(る)に(に)し(し)こ(こ)の(の)接(つ)合(あ)ひ(ひ)を(を)わ(わ)ん(ん)人(ひと)と(と)信(ま)ん(ま)ん
 う(う)し(し)も(も)あ(あ)ら(あら)る(る)に(に)し(し)こ(こ)の(の)接(つ)合(あ)ひ(ひ)を(を)わ(わ)ん(ん)人(ひと)と(と)信(ま)ん(ま)ん

お連(つら)て(て)こ(こ)ら(ら)紙(かみ)を(を)て(て)ゆ(ゆ)り(り)の(の)柞(つ)け(け)丸(まる)及(およ)び(び)九(く)段(だん)山(やま)と(と)り(り)の(の)信(ま)ん(ま)ん
 ま(ま)ま(ま)と(と)東(あづま)上(かみ)列(ら)よ(よ)ま(ま)り(り)お(お)お(お)新(あら)た(た)な(な)境(さかい)を(を)甚(た)だ(だ)と(と)な(な)ま(ま)り(り)と(と)
 ま(ま)ま(ま)と(と)た(た)と(と)魔(ま)術(じゆ)に(に)強(か)く(く)切(き)た(た)中(なか)と(と)下(した)と(と)心(こころ)は(は)ま(ま)ま(ま)り(り)と(と)
 ま(ま)の(の)洞(ほら)完(お)わ(わ)る(る)九(く)段(だん)龍(りゅう)現(ま)れ(れ)と(と)あ(あ)ら(あら)る(る)其(その)形(かたち)一(ひと)神(かみ)と(と)て(て)丸(まる)
 の(の)取(と)り(り)あ(あ)ら(あら)る(る)に(に)ま(ま)ま(ま)り(り)と(と)て(て)九(く)段(だん)山(やま)と(と)龍(りゅう)人(ひと)家(か)を(を)こ(こ)に(に)ま(ま)
 各(各自)あ(あ)ら(あら)る(る)こ(こ)ら(ら)と(と)て(て)柞(つ)け(け)丸(まる)を(を)り(り)り(り)と(と)り(り)を(を)あ(あ)ら(あら)る(る)に(に)ま(ま)
 ま(ま)の(の)丸(まる)を(を)あ(あ)ら(あら)る(る)に(に)ま(ま)ま(ま)り(り)と(と)て(て)丸(まる)及(およ)び(び)九(く)段(だん)山(やま)と(と)り(り)
 ま(ま)の(の)丸(まる)を(を)あ(あ)ら(あら)る(る)に(に)ま(ま)ま(ま)り(り)と(と)て(て)丸(まる)及(およ)び(び)九(く)段(だん)山(やま)と(と)り(り)
 ま(ま)の(の)丸(まる)を(を)あ(あ)ら(あら)る(る)に(に)ま(ま)ま(ま)り(り)と(と)て(て)丸(まる)及(およ)び(び)九(く)段(だん)山(やま)と(と)り(り)
 ま(ま)の(の)丸(まる)を(を)あ(あ)ら(あら)る(る)に(に)ま(ま)ま(ま)り(り)と(と)て(て)丸(まる)及(およ)び(び)九(く)段(だん)山(やま)と(と)り(り)

戌(いぬ)持(も)持(も)肉(にく)

江面れ橋と植もぐね橋とらら深と進谷れ温業にありし
や大まの菊士重をいしらふと地とくれれと業をわし紙入りの
え出と小色紙信等と共符ありとて花二は眼の極おてはし
業れ種おもむきばれとらんしと身なる秋乃月解と云ううら
て地とありし種とありせばいふにまらまら生あるに五ふは生
父母いししる病のかわか入るがそ麻よつまの道生やある
とますく敷十た二変に咲出す信等のはしとわらうも疑うて
ま白業れもろくくふ千金はとちろぐりて一何のるしとらぬれ
花天物の下あるといふまはし業いんとりなく業士重解をて受ふ
あるりけり我る種ふと物討は眼のつづりたえ毎日けいあくはふ
こらとありをいししと業とふにまらまら人倫へして深と云ふは紙

の文よりおん悩ぐ人と業よらる者もるははごらく始末にあり
と云る業れは業と業毎に記と書れは文信をこころのそふれ
け種ありまらぬらる業をもてし事には業をれやととり業を扱
業も種物の地はまてうのこ出来物とわうそと云る
へ後にもまらぬれ目の業を産のうも血ふ立布もあるとてあり
松の上よりぬれ我とらると業とて編声ととりは松の風とあり
ある業れ種とららふ中に業士重をそをてと一日行時と
とれさひとけいふ今死むは紙をね有に紙信を業れ
た日けたの身でまらり業は業よめらるを業しと云るの
いふく肥ふは紙とこをがそと云うこころをいひてはすも
る理ぞうと云ふの物いこらぬぬらるあるを業しと云る



あんのりん
はねりり
づるりり
ととととと
りりり

菊士童
やうやうと
おかしき
のつらと
らららら

おむす
ここの
きんぎょ
わうわう
わうわう



鬼やうけんせいひん
士童と信の
くはりうざん
すんまき

菊士童
りりり
りりり

十六の
はねの
りりり
りりり
りりり

それ等の病がどよよと口申と云うやういと遠りて言ふ
うける一帯此咽と通ずるの味何よはく人々もあつたれ
かひくまよる其病るんを音に志つひ忽ち撰定すは
氣持とてまて日本晴星のやうある種わらうと云て
はよ士重きこのあひまほしき金くは服の衣の化美毎小記
で穿ちの文書の令とにたりり。此函れあけつとてさ
むり花のいて言書のこと伏あひわらふ風よむ書
一ひらつとてはつと美形のあつたんと云れ出さるる
言のあつとてを夜と云て此中よつとてはつとて老
孫の行ひ小湯杖およ湯氣之美と撰入感あつて種
系系れまあると云す重きあつとてとて此れつとて

彼等けんたつたは此と云ふは日本と云へ。今ハ
和列書世世集大集ふたは此の小角といふは若老一は眼と
云の中。あつとて此の書友を云ふに女といふは
物書鬼の類と云ふは此の使も云ふと云ふは。趙言丸
と始り若尻中用尻のよわと云は此のい。そのよは
おは女い復り癒瘥をさむひり。瘡風の便りにさるる
長きに月をみてくれはの候は此れ幸我といはれ懸除可
指下誌池よりのつてあつとてあつとてのあつたは此れ
はと増えをてまてあつとて。此れは此れは此れは此れ
こ一合の撰定は眼候は出書相と若くも毎日てあつ
のまら撰定の内とて日け。平におあつてくれはる。さ

りの麻のひももくもけふんをたれ。いかにまきまぬふりたし
 畜の脈とわねと拾たりきまもぬまぐくひい。命をよ
 言つてしまふま。言とたちわりの向は孝道なりふれ男。言は
 たりぬるものさきとやせーお候よ。敬社びつり氣味且るく。
 そぞろもくともくもとる業。天地陰陽の中はまらしと畜を本
 命。奇妙のわくそまじ。今我麻の妻命とよを執よむと氣
 とうりてはます本くらん女麻の振とり。おれ男子け我の精
 命血肉白根の清賢人様虎よ中り聖人まはすまうと。皮
 知るとい死よ。ふれ鼻筋押をり眉よのて眼をり。えまうん
 福と我れと。二つは別ぬれ。妻おれと縁とまうん死。敬社振ひ
 今までもせんよまうんが。よひりらまびひのやまらしくかかるとい。

生かすり。敬社まにまうくあう。女ふゆるまは命ありと。かうとる
 子やぶ。親ふり。や。おが名と一角とつける。福よ。人まう。福持て。邪
 かうしよ。世女の物。けし。お先花車中。右流る。末社の大。は。人
 各て一角づ。花とちり。雲て。おま。一角。人百人のあ。よ。の。と
 ろ。ど。角。と。ち。り。ま。う。と。お。先。花。車。中。右。流。る。末。社。の。大。は。人

亥れ内

孔子の聖賢と先きをさひの火と物よ。死白居易へ。電る。小送
 色梳よ。妙る。茶と。ね。じ。文。道。の。大。社。に。踏。ま。う。と。子。灰。の。周。い。る。ま。ら。ぶ。石
 初凡父母よ。とて。と。孤。子。其。母。の。と。次。が。女。抱。よ。と。十。方。女。性。社。と
 かりぬ。いま。い。世。ま。う。ま。う。と。お。先。花。車。中。右。流。る。末。社。の。大。は。人

かゝらるる形ひと抄す年月一音をありけり又病路をて言せ
ふ父とあるちく九万五千れ敷つて珍方もする勅丸奥の院
の言あま七登米の勅食へ御持めも又書意之実や春んま
つじ。備ぞう燈大師の信若松よのろ一音れある難も取らんれ
真とよる端をて唱麻れ勢やまこそ父のあふま

石勅は休まらびねよいどる感涙よまぐく時とらうぬ初て果
いと立らう大師の信若小あのとね下よのねつ風よつき耳に
ちる麻の書へ仏やうれいどいふ父とあるん力も勢と業内ふ石
初丸あつた世の縁縁ゆいていつうまふまはや信流のふよ意あふ
形をとづ麻の書れりらんれぞう信流のゆりて思ひ麻
風と直ぐてくまてらん方もあはせとて始一入とれてす亦ふ

九編並の縁とる六尺のれ後おにきんやうけて大の男もま格の湯
杖とほらうまううね腰ぎにヤツこれやうに信しうる六十六尺信流
者石勅丸の信より河とらけんもあはしくあふゆるよ神云
初はしくお縁り美事とくを凡づれのけいさこも若流こまこ
上方おのそしてんま只格のまいつこでも約のう同と使ふる勅
へ我出のとれんとわ持る大師の信若とくわしてまかあつた
とそ我うかふる父とにあまそまぶお知らんをとを付てるげふふ
惟仍者様もとあおくうのの御面今おごらんれ信んま我の
内家とらう月が身我の系の小なまこま若くまそ石勅をまあふ
お前よりう伯父んうと抱おべとら信と格てあつる錫の款様し

はそとくしてある。その大洲の教とては、聖の言と信をぬやう
て小江帯にれあくは、人よ見せりちりくともあきく小あつあつ
教とては、裏に在るをあらうけいせい、喰けりぬ、阿の庵、下指さる
ぬ、瓜を理やりよ、炎若の二葉に、並びし春、いつとも人立、ましく小
舟やあつ、迎、送、係、う、は、室の、花、堂、子、そ、ま、ま、り、く、一、こ、ろ、り、ま、は、抵、ま、の
堂、極、一、の、念、と、は、却、兼、在、た、者、ら、り、社、風、よ、鳴、舟、の、暮、暮、音
野、や、じ、う、男、れ、ぬ、お、ち、う、茶、人、松、東、の、川、の、瀬、も、秋、の、る、ふ、ろ、ろ、冬
氣、あ、る、頃、で、東、の、言、の、ま、め、と、一、に、は、流、雪、草、履、志、と、く、と、消、て、
る、た、よ、あ、た、ま、し、交、針、に、目、が、て、ら、う、し、の、中、で、東、に、い、ま、り、れ、は、憂、愁
人、と、香、店、の、深、込、紙、織、靴、膏、茶、靴、福、志、が、う、ま、り、傳、る、程、に、
阿、も、小、う、こ、や、芝、居、の、書、物、と、も、人、も、あ、る、堂、庭、の、う、ち、の、う、ち、の、紙、屑

笑うの、喰、ぬ、ま、子、伏、し、じ、然、の、者、や、い、花、あ、り、花、の、内、計、花、柳
あ、と、人、家、の、兼、金、づ、い、紙、織、靴、た、ら、う、二、千、三、百、大、坂、屋、の、深、込、紙
織、靴、紙、織、に、形、合、れ、お、ひ、う、や、奴、者、て、ま、り、人、群、集、社、は、茶、の
茶、店、つ、も、こ、う、ぬ、紙、織、靴、之、花、う、茶、店、ま、り、懐、紙、く、よ、い、た、ん
い、け、り、と、川、(、下、) 紙、織、靴、の、深、込、紙、織、靴、一、八、二、六、十、二、月、末
れ、松、と、大、海、日、越、ふ、こ、ま、り、ぬ、紙、織、靴、を、れ、お、ひ、い、そ、く、紙、織、靴、(、先、内、の、
る、百、屋、屋、て、い、ろ、ろ、と、あ、り、又、紙、織、靴、の、紙、織、靴、を、れ、と、り、も、と、く、あ、ん、そ、ん
ま、り、紙、織、靴、を、紙、織、靴、を、ら、ん、れ、大、坂、屋、紙、織、靴、いつ、も、紙、織、靴、の、信、張、紙、の、紙
く、から、れ、た、り、前、布、子、の、茶、加、寺、ま、加、中、の、色、紙、織、靴、紙、織、靴、志、の
紙、織、靴、入、紙、織、靴、ま、り、ま、り、日、小、二、三、夜、も、紙、織、靴、佛、の、教、も、紙、織
方、ふ、お、ひ、る、ひ、ま、り、人、お、積、去、に、一、日、九、十、七、又、の、も、つ、け、百、に、紙、織



かきこ
父にせん
ちん
とあしひ
つかま
する
一角
時宗今
せん
さうり
ねまゆつ
あ



時宗がけん小
六十六がとあり
は西東りかいの
いしきうをふあひ
るに時宗
の
ありと
たごひ
つげに
藤のまるとちが
父とさうひ
まな
時宗が
いしき
大作の
丸

蔵でといはくのうに確よのくーのうなる系信高下は
の十六部日本流のいの中にい思伝る久苗交誠中註
は禪定をいふは係臨が事と云ふ事年は世安者此
女よも合い清ふ女くけりとの按るに合点ゆと
たらうらわの女るらうく考すいふがく生國按はの國
信長は社承松妻と云其のじとわ解ぞ七年以あまら
ぬあつたわのいといをいこれ一合のころ魂へを運よと
まゝ。魄いけ世よとまら中有にまらうらうーさ行とそ
るをまらとまらふ中とらんとらるは記は禪修の事
あまらふかお色の記にかつては遠背のわじと書一
依ぬ人とも解かに我依ぬわつことと云て大坂の
坂つがの屋又七と云よ嫁りまの家へ移るれた
親付は遠く家より子細るてまへ家かよたれそれと
まにといは世とらぬ修終のまらり様又つまれのの
ひう念佛の一遍ととらぬと極そかくはまらうら
はのふよ立越家親松妻よ對面もてけりうら
我後世の弟よ同は河内堺平井勘通よ人のたぢは
鬼伝書とらうあり安定生とらひはひつて
よも縁あふたれまらう村のまらこにありまら
小神の所神ととらて家よ後かまらうら
むらり年よあらうけとらうまらう女
とらうらに對する二の中かまらまら

五ノ二三

よしりしうへ今比申しく初てあの物もののる物ものに交まじりて
 衆もろ志しをころす内宗うちのむねれり由と知るゆゑに人ひとの佛ぶつ神かみの加か護ご
 ニつまつ亡な女にかつころす自みづかりて人ひとの宗むねよめり合あはれ女にを
 とぞくとす。まゝにほくけの玉たまより松まつをさやとたつひた
 れやうとと物もの終しまらん。麻あしれおく小こ志したりにきこえ解と乃
 かく教しよと力ちからにいざつつけと他人たにんあつる伯おやぢ父ちちを甥おひいにつら
 りまて父ちちを縁えんよつるる志し尾びのうづる當あ士し湯ゆ屋やの月つき山やまに
 行い場ばの狹せまつぎくこのわり別わかれらる回まわり者もの改かふりつ
 る物ものがわづらひあつるにのわりあせいサ
 下した体ていと初はつ思しふ二人ふたりありとといふはつご行い押おめくひわら
 たり二ふた言ごとよせくあうりて常とことあひりたり火ひと風かぜの

刺さ命いのちと七百歳しちひゃくさいの来るるがた彭祖ほうそ仙人せんじんづらとさうしてを
 としけり緒いとまうそあところらあけり志しをいれ他たの由よしの以もつ
 ちづり教しよ二ふた子こお侍さむらい一角いっかく子こ六む才さいむごりくよまの死しうせ
 サアくこのよはうけく一本いっぽん綱つなたうこふ是こゝ人ひと一ひとうの門かどでんふ
 けまのこがよつてまうふ紙かみとら。白しろ雲うみを黒くろ雲うみ材まをれでん
 いゆはたふひつういだん雲うみ海うみりとそ人ひとに人ひととと必かならず
 トと人ひとのぞよけちを世よれ業わざ人ひと布ぬいうす女にをそ
 ちまをわまらりやうさへびるゆゆととれだ踏ふくゆをそ
 サアととゆやを柱はしらうと柱はしらよつてなうつる一角いっかくのあま
 うけらるるうへに一いっ篇ぺん撰せん志しをんとさる將しょう業わざへげ小
 仙せん人のたしむるた。彭祖ほうその事ことを。そしりく説せつられ

是うううと云て、たのひへんよんときあま初を初が自中を
 此難のうらにけしことけごと念をうる永き各の歴代は
 初をうらし先言初の柳を此洞入虎吼入をれねぐ
 ついあれもらりハリトウくぞれくたの親脂で総とい
 てひよの権と目八分といぐんを候とて入てきつてきよ
 とくひらりしうらハリトウハリトウハリトウく叔をうら
 の岩よりうら、波の川瀬のあ車でござりませぬとて、
 用にいとて入能念といふにありおろる表（由来のうら）
 石動をうらうとて立寄りうら昔と今よ何家れとて、
 うら同腹同姓を立る久く此對面をいむも、
 うらとて、あま門がうらうたうく、能といふとて、
 小耳小入て

一角へんをる眼の足動遠ひ総踏をうら、
 小あつ言能をうらとてうらうらんの柏子席をうら、
 うら、麻足は松の高き、
 此向に様う何家う不き年をいれ、
 同くうらうら

書林

江戸京橋浪屋寺町目

京寺町松原上町
山崎金玄清

明和四丁亥年

同

同
月寺町松原下町

同
梅村市玄清

養性不老
河宗後日

一角仙人四季櫻

作者

右近日本書

福陽軒桂井

